

明海大学不動産学部

不動産の不思議

第281回

学生たちの視点と発見

【学生の目】

意識して街を歩くと、電線地中化の普及が進んでいることが分かる。主要都市はもちろんのこと、新しくできる分譲開発地や土地区画整理事業の施行区域でできる住宅地も電線を地中に埋めている。電線の地中化が普及する中、今回の不思議は、とても面白い工夫と感ずる事例を発見したことがある。

地中化の先へ

擬態用いた景観づくりを期待

電線を地中化することで、電柱や電線を空に張り巡らせる必要がなくなり、広い空を演出することができ(朽方勇祐「不動産の不思議第2



朽方 勇祐
不動産学部3年

中に埋めるために必要な地上機器をレンガ調のタイル装飾で覆ったものだ(写真)。

見た目に違和感なく、建物の塀や外壁にも通じる材質感で、まるで街の装飾の一つのように感じられた。不動産の勉強をし、他の電線地中化の例をいくつか見てきたため気づくことができたが、一般の人が見てもまさか変庄用のトランスとは思わな

78回」19年4月9日号)。一方で、当然ながら電線を地中に埋めるためのトランスなど、地上機器を設置することが避けられない。これらの地上機器は電線や電柱に比べれば目立たないものではあるが、せっかく住宅地の景観を改善するのであれば、なんとしてもこれを目立たないようにするべきだろう。

千葉県の上野市を歩いていた時にたまたま見つけたのは、電線を地中化するための地上機器をレンガ調のタイル装飾で覆ったものだ(写真)。



街の景色に溶け込む変庄用トランス

「擬態」を用いて不要なものを隠す景観づくりが一般化し、テーマがはっきりした没入感のある街に早く住みたいと思う。

【教員のコメント】
インフラ施設では施設固有の機能が優先され、美観や機能の付加は容易ではない。道路の仕上げを御影石にする、歩道に彫刻を置くことは一般に困難だ。地域間競争力が問われる中、令和の時代は若者のシニアライドを高めるためにも差別化戦略を許容すべきだ。